

2020年1月吉日

各 { 保健所設置市 }  
      { 特別区 } 衛生主管部（局）  
                  感染症対策担当課 御中

## 研究協力依頼書

国立研究開発法人  
国立成育医療研究センター  
理事長 五十嵐 隆

謹啓 時下、ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。

この度、厚生労働科学研究班の一環として、「**腸管出血性大腸菌の病原体保有者に対する抗菌薬投与と排菌期間の関連を検討する後ろ向きコホート研究**」という名称の疫学調査を行いたいと考えております。腸管出血性大腸菌は毒素を産生し、出血性腸炎や溶血性尿毒症症候群の原因となるほか、胃腸炎症状の有無に関わらず食中毒や施設での二次伝播によるアウトブレイクの原因となります。ごく少量の菌量でも二次感染の原因となりうるため保菌者に対しては就業制限・登校(園)停止などの措置が取られ、これに伴う社会的損失は大きいと考えられます。このため、保菌者の排菌期間を短縮させるための方法を明らかにする必要があります。

本研究では、2017年1月1日から2018年12月31日までに東京都内の各保健所に届け出られた腸管出血性大腸菌感染症の患者の症状や検査、治療とその後の経過について調べます。この結果をまとめて、排菌期間の短縮や二次伝播を未然に防ぐための最適な方法について検討します。

お忙しい中大変恐縮ではありますが、本調査実施につきまして、貴施設のご協力を賜りたくお願いさせていただく次第です

なお、当該多施設共同調査研究の倫理審査につきましては、文部科学省・厚生労働省による「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」（平成29年2月28日策定）第7研究計画書に関する手続、2「(3) 研究機関の長は、他の研究機関と共同して実施する研究に係る研究計画について、一つの倫理審査委員会による一括した審査を求めることができる。」に基づき、国立成育医療研究センター倫理審査委員会での一括審査をご利用頂くことが可能でございます。

当該調査研究への協力の可否、ならびに成育倫理審査委員会での一括審査の要不要につきまして別紙にご回答いただき、記入済みの調査票（ご協力いただけない場合は未記入のまま）とともに **2020年2月29日までに** ご返送頂けますと幸いです。ご多忙中誠に申し訳ございませんが、よろしくお願い申し上げます。

謹白